

## ▼Let it be.▼

校長 阿南 孝也

カトリック教会が大切にしている「アヴェ・マリアの祈り」は、3つの文章からなる美しい祈りです。最初の文は、タブローでおなじみの、天使ガブリエルがマリアを祝福した次の言葉です。「アヴェ・マリア、恵みに満ちた方、主はあなたとともにおられます（ルカによる福音書1章28節）」その後、マリアは親戚のエリザベトを訪問します。このとき彼女がマリアを讃えた言葉が2つ目の文章です。「あなたは女のうちに祝福され、ご胎内の御子イエスも祝福されています（同1章42節）」そして「神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、今も死を迎える時も、お祈りください」との祈願で終わる祈りです。

先日、中学1年生の宗教研究の時間にこの祈りの取り上げ、併せてビートルズの「レットイットビー」という曲について話をしました。曲の出だしはこうです。

When I find myself in times of trouble  
Mother Mary comes to me.  
Speaking words of wisdom, Let it be.

「悩み苦しむとき、私のもとに聖母マリアが訪れて、知恵の言葉を話してくれる。そのままでいいのだよ(神のみ旨のままになりますように)」

曲名の“Let it be”は、受胎告知を受け入れたときのマリアの言葉の冒頭部分です。

“Let it be to me according to your words.”

「お言葉どおり、この身になりますように(ルカによる福音書1章38節)」

ラテン語では、“fiat voluntas tua”これは、主の祈りの「あなたのみこころが行われますように」の部分と同じ言葉なのです。(この言葉は、食堂高校側入口のガラス扉にも印字されています。探してみてください！)

神の導きは、人を通じて示されると言われます。よき先輩、よき仲間、よき先生との出会いを大切にしてください。また人の助言や忠告に耳を傾ける謙虚さを持つ人であってください。洛星で学ぶ皆さんが、聖母マリアに倣い、神のみ旨を受け入れて、各々が進むべき道を見つけて、歩んでくれることを期待しています。

先日、大学入学者選抜改革の主な取り組みについて報道され、昨年11月の第1回モニター調査問題や正答率等が公表されました。中でも国語の記述式問題において、行政機関の広報、そしてガレージ契約に関わる文章の出題が目を引きました。学習指導要領に「現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと」と謳われていることを受けたものと推察されます。いずれにしても、授業を中心として、日々の着実な学習を積み重ねること、合わせて、洛星が誇る学校行事や課外活動に主体的に取り組むことが、思考力、判断力、表現力、幅広い学力獲得につながると確信しています。

本年度最初の定期考査が始まります。計画的に準備をして臨んでください。真剣に取り組むことによって、各自の真の学力伸長につながると願っています。